

## 〈研修会報告〉

### 令和六年度福岡支部研修会に参加して

中村学園三陽高校 鶴田 賢良

七月二十四日(水)午後より、福岡市立福翔高等学校にて、福岡支部研修会が開催された。今年度は、小原俊樹先生を講師としてお迎えし「古代書法を活かした制作」をテーマに研修が行われた。

研修の冒頭、小原先生の自己紹介を兼ね、これまで先生がどのようなことに興味関心を持たれ研究なさってきたのか、その経歴等が紹介された。その中でも、特に印象深かったのは、かつて小原先生が高校の教員をなさっていた時代に受けた実技講習会のお話であった。かの井上有一から直接指導を受けたという興味深いエピソードであった。

また、篆隸書に関する的を射たご説明もあった。特に、篆書といえは「逆入平出」の性質で一括りにしがちではあるが必ずしもそうではないということについて、甲骨文字などの中国古代の文字や春秋時代の侯馬盟書に見られる文字の用筆を図で示され、大変明確にご説明いただいた。

続いて、篆書もしくは隸書を用いた一字書の実技研修が行われた。半紙四分の一大の紙に、まずは、字書に見られる典型的な一字を書くようにご指示があった。その後の展開は、実に印象に残るものとなった。「では、それを極力太く書いて」「次に極端に細くして」「渴筆だけで」「潤筆で」「ゆっくりと」「速く」「すべての線を紙からはみ出して」「左手で」など、矢継ぎ早に出てくる指示にあたふた。特に困難だったのは、「喜



怒哀楽の四つの心情で書き分けて」というもの。私自身はもとより、多くの先生方も大変苦慮しておられる様子であった。こうした小原先生の指導・展開の方法は、私たちの実際の授業実践の場でも積極的に活かしていけるものであり、大いに刺激を受けるものとなった。最後に色紙に清書し、全員で鑑賞会を行い、研修会は閉じられた。

ご多忙のところ講師を務めていただきました小原先生をはじめ、今回の研修会を企画運営していただきました地区役員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。